

500 Ga-67-fibrinogen-DAS-DFO による 動脈血栓の画像化

鈴木輝康, 山崎俊江, 青木茂, 古西博明, 内田清久,
川口信之, 高田政彦, 古川顕, 森正幸, 山崎武, 坂
本力(滋賀医大 放),
中村良雄, 田畑良宏, 森渥視(滋賀医大 外Ⅱ)

今回我々は動物実験血栓モデルにおいて、Ga-67-fibrinogen-DAS-DFO が動脈血栓、静脈血栓共に強い集積を示したので、本製剤による臨床動脈血栓の画像化を試みた。対象は、CT、血管造影法、RI-アンギオグラフィー、超音波断層法により動脈血栓の存在が診断、または推定された解離性大動脈瘤、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、左房内血栓症、左室内瘤である。Ga-67-fibrinogen-DAS-DFO を静注72時間後、中エネルギーコリメーター装備のシンチカメラにて血栓存在部位と予想される部位を撮影したが、心腔内血栓については96時間後撮影も加えた。

CT で血栓存在が証明された解離性大動脈瘤、大動脈瘤は全例、胸部または腹部において強い集積を示した。しかし、閉塞性動脈硬化症においては動脈瘤ほど強い集積を示さなかったが血流存在部で有意な集積を示し、また、心腔内血栓も強くはないが有意な集積を示し、本製剤は動脈血栓診断に有用であった。

501 ^{67}Ga -DFO-DAS-Fibrinogenの臨床応用

渡辺俊明、大嶽達、百瀬敏光、西川潤一、
飯尾正宏(東大 放)
安原 洋、大橋重信(東大 一外)
高山 豊、白川元昭、多田祐輔(東大 二外)

^{67}Ga -DFO-DAS-Fibrinogen (^{67}Ga -Fib)の血栓描出能につき、動脈血栓症例を中心に臨床的検討を加えた。全症例に skin test を行った後、 ^{67}Ga -Fib を2mCi静注し、原則として1日後及び2日後の2回撮像した。

術前症例は大動脈瘤を主体とした9例である。このうち手術所見または他検査で血栓の存在を認めた7例中5例に陽性像を得た。手術で血栓を認めなかった1例では1日後のスキャンにて大動脈への集積を認めたが2日後のスキャンで集積の相対低下を認め、血液プールによるものと判断できた。バイパスグラフト術後13症例20グラフト中16グラフトに陽性像を認めた。グラフトの種類により集積の程度に差が見られ、グラフト内面における血栓形成の程度の差を示唆するものと考えられた。

以上、 ^{67}Ga -Fib は血栓の検出に有効であり、十分臨床応用が可能な製剤と考えられた。

尚、本研究は厚生省核医学診断薬剤開発研究班の研究の一環として行われた。